

京都大学医学部附属病院歯科衛生士卒後研修生プログラム

京都大学医学部附属病院は次の研修プログラムによる研修生を募集します。

1. プログラムの名称 歯科衛生士卒後研修
2. 診療科名 歯科口腔外科
3. 研修コース名 歯科衛生士卒後研修コース
4. 研修プログラムの内容 急性期病院における**周術期口腔機能管理**を学ぶ
5. 受講対象者 歯科衛生士資格所有者
6. 募集人数 2名程度
7. 研修期間 6か月間
8. 研修時期 調整が必要ですので、別途相談
9. 応募期間 随時
10. 研修料 月額 21,600円 (H27.4.1より改定)
11. 申請書類 病院研修生受入れ申請書(別紙様式)(誓約書、履歴書、所属部門長からの推薦書、健康診断書及び免許証のコピーを添付)
12. 出願書類提出先・問い合わせ先
〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町5-4
京都大学医学部附属病院総合臨床教育・研修センター
TEL : 075-751-4839
FAX : 075-751-3091

京都大学医学部附属病院歯科衛生士卒後研修生プログラム

【研修の目的】

本研修の目的は、急性期病院において**周術期口腔機能管理**など歯科衛生士の専門的知識と技能を身につけ、将来指導者としても活躍できる歯科衛生士を育成することである。

【一般目標】

チーム医療を理解し、医療スタッフと円滑なコミュニケーションをはかることができる。
がん患者の病態を理解した上で、適切な**周術期口腔機能管理**の立案と実践ができる。
口腔外科や口腔インプラントに対するオーラルケアが実践できる。

【行動目標】

[1] 患者-歯科衛生士関係

患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な人間関係を確立するために、

- 1) 病歴、病態、治療法などを正しく把握できる。
- 2) 患者の心理・社会的背景に配慮できる。
- 3) 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる。

[2] チーム医療

- 1) 医療チームの構成員としての役割を理解し、他の医療スタッフと適切なコミュニケーションがとれる。
- 2) 医療チームと適切なタイミングでコンサルテーションができる。
- 3) 各種会議等への出席（症例検討会、カンファレンス、NST や摂食嚥下など）ができる。

[3] 問題対応能力

患者の問題点を把握し、問題対応型の思考を行い、生涯自己学習の習慣を身に付けるために、

- 1) 臨床上の疑問点を解決するための情報を収集して評価し、当該患者への適応を判断できる。
- 2) 自己評価及び第三者による評価を踏まえた問題対応能力の改善ができる。
- 3) 臨床研究や治験の意義を理解し、研究や学会活動に関心を持つことができる。
- 4) 自己管理能力を身に付け、歯科衛生士としての能力の向上に努める事ができる。

[4] 安全管理

患者及び医療従事者にとって安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身に付け、危機管理に参画するために、

- 1) 医療を行う際の安全確認の考え方を理解し、実施できる。
- 2) 医療事故防止及び事故後の対処について、マニュアルなどに沿って行動できる。

- 3) 院内感染対策（スタンダードプリコーションを含む。）を理解し、実施できる。
- 4) BLSを実践できる。

[5] 症例呈示

チーム医療の実践と自己の臨床能力向上に不可欠な、症例呈示と意見交換を行うために、

- 1) 症例呈示と討論ができる。
- 2) 臨床症例に関するカンファレンスや学術集会に参加できる。
- 3) 学んだこと、経験したことをまとめてプレゼンテーションすることができる。
- 4) 自主的な学会、研究会、研修会へ参加できる。

[6] 医療の社会性

医療の持つ社会的側面の重要性を理解し、社会に貢献するために、

- 1) 関連医療法規・制度を理解し、適切に行動できる。
- 2) 医の倫理、生命倫理について理解し、適切に行動できる。
- 3) 医薬品や医療用具による健康被害の発生防止について理解し、適切に行動できる。

[7] オーラルケア

- 1) 周術期管理を理解し、口腔機能管理ができる。
- 2) がん患者の心理を理解し、口腔機能管理ができる。
- 3) 外来、病棟、中央部門（ICU、化学療法部、手術室など）における診療補助とオーラルケアができる。
- 4) がん化学療法の副作用について理解できる。
- 5) 緩和ケアを理解できる。
- 6) インプラント治療を理解し、診療補助とインプラント治療時のオーラルケアができる。